

令和5年度 中央区立月島第二幼稚園 自己評価報告書

学校名：中央区立月島第二幼稚園 所在地：中央区勝どき1丁目12番地2号
 園長名：竹谷 直史
 幼児数：96名 学級数：5 主任：1名 担任：5名 その他職員：6名

教育目標 心身ともに健康で主体的に生活する子どもを育てる。
 げんきな子ども やさしい子ども
 かんがえる子ども がんばる子ども

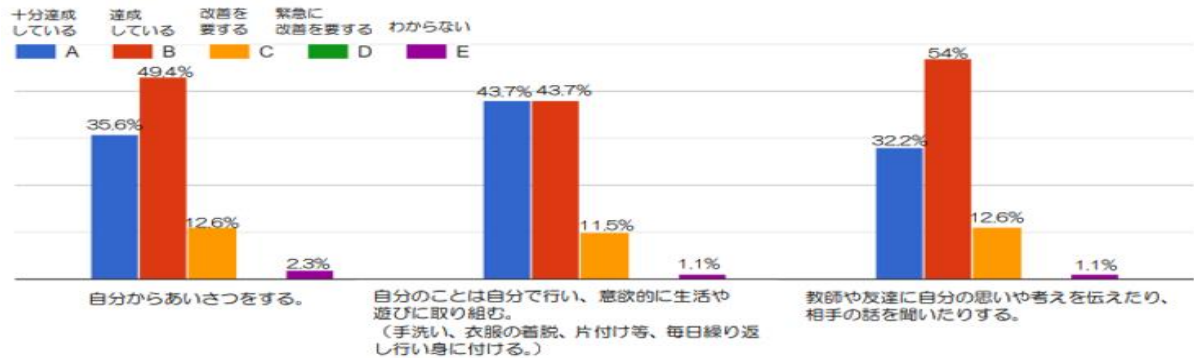
1 重点目標の達成状況及び取組状況

重点目標1 健康で明るい生活を送るための基礎力を育む

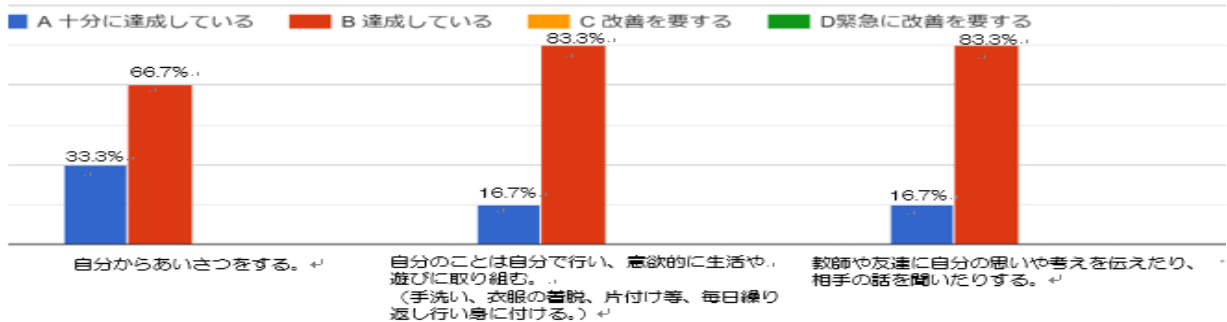
評価項目：発達段階に応じた基本的な生活習慣や態度の確立を図る。

- 評価指標：
- ・自分からあいさつをする。
 - ・自分のことは自分で行き、意欲的に生活や遊びに取り組む。
 (手洗い、衣服の着脱、片付け等、毎日繰り返し行い身に付ける)
 - ・教師や友達に自分の思いや考えを伝えたり、相手の話を聞いたりする。

<保護者>



<教員>



○①では、保護者・教員ともにA・Bのプラス評価が80%以上であった。保護者の評価の方で昨年度は見られたD評価が0%となり、教員では昨年度のB評価100%からA評価が33%生まれるなど、相応に改善の兆しは見られた。しかし、どちらもB評価の方が多くことが特徴であり、保護者の方ではC評価があることも課題である。教師や友達との日々の遊びや生活を通して、幼稚園が楽しい場所であることを感じられるようにし、幼児自らあいさつをしようとする姿へとつなげていきたい。

○②では、保護者のプラス評価が87.4% (前年度比10.5%増)、D評価が0%になり、教員も数%数値が向上するなど、①と同様の改善傾向が見られた。集団生活の中で友達の姿に刺激を受けながら、主体的に取り組もうとする姿を引き出せるようにするとともに、必要感を感じられるようにしていく。また、日々の生活習慣に関わる内容であるだけに、家庭との連携が欠かせない。今後もより一層情報共有等を図りながら、幼稚園と家庭とでともに取り組み、幼児の姿を喜び合えるようにしていく。

○③については、②同様に保護者の評価でD評価が0%になるなど、全体的な改善傾向は見られたが、昨年度同様に、「十分に達成している」よりも「達成している」の割合が多いことが特徴である。今後も家庭とも連携しながら、子どもたちの話を丁寧に聞き、安心して自分の思いを表現できるように、また、話を聞いてもらう喜びを感じられるようにしていきながら、A評価の割合を高めていきたい。

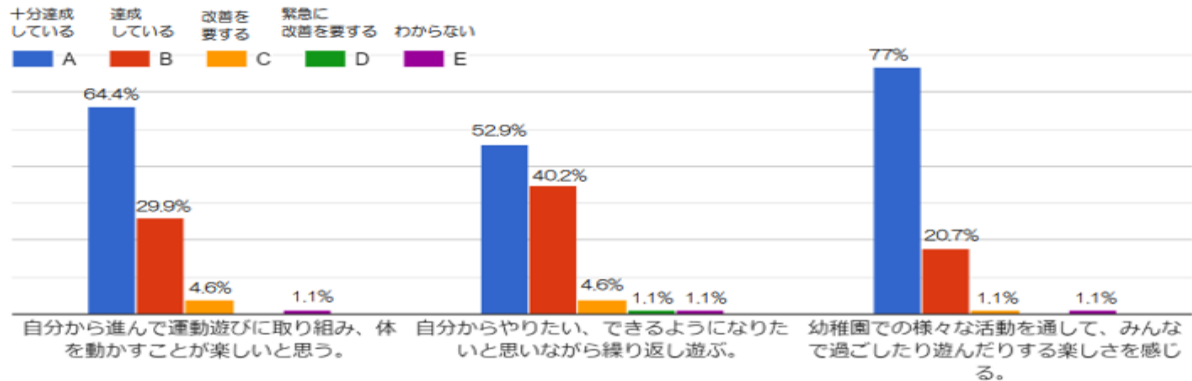
重点目標2 自ら環境に関わりながら、遊ぶことの楽しさを十分に味わえるようにする

(トライ！チャレンジ！月二っ子の育成)

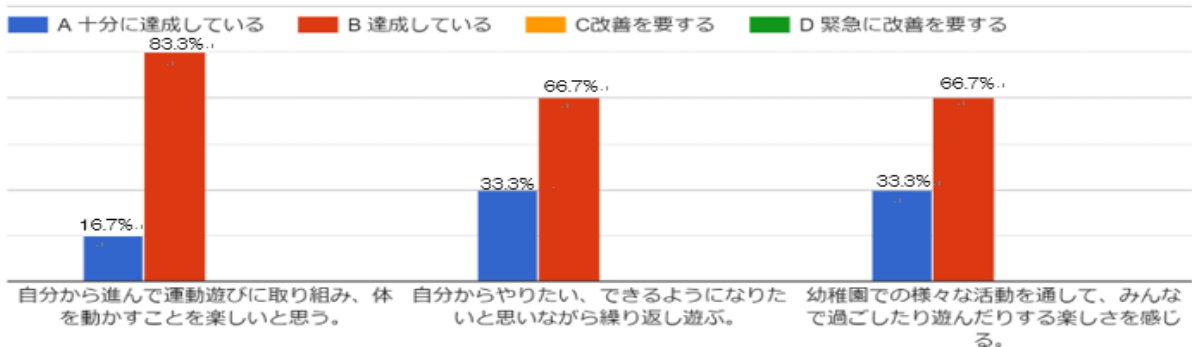
評価項目：一人一人の力を引き出しながら、たくましい心と体をつくる。

- 評価指標：
- ・自分から進んで運動遊びに取り組み、体を動かすことが楽しいと思う。
 - ・自分からやりたい、できるようになりたいと思いながら繰り返し遊ぶ。
 - ・幼稚園での様々な活動を通して、みんなで過ごしたり遊んだりする楽しさを感じる。

<保護者>



<教員>



○重点目標2では、全体として90%以上のプラス評価になっている。(前年度は80%のプラス評価)

○①は、保護者の評価で昨年度は見られたD評価が0%になるなど、一定の改善傾向は見られた。日々緑のはらっぱ等を使って行なう全学年合同での体操や、校庭を全面的に使っての各種活動への取組の様子を保護者専用アプリ「ルクミー」を用いて継続して発信してきたことが一定の数値となって表れたもの捉えている。一方、教員の評価は、昨年度に比べA評価が16.6%少なくなっている。一人一人の幼児に応じながら、体を動かすことをより楽しめるよう、今後も創意工夫を重ねていく。

○②でも、①同様に保護者の評価で昨年度は見られたD評価が0%になり、A・B評価共に昨年度より増加するなど、改善傾向が見られた。縄跳びや鉄棒、クライミングウォールや竹馬など、自分なりに目標をもち、達成感が味わえる活動が継続して行えるよう、学年毎の発達や時期を考慮しながら取り組めるようにしてきた。公開保育等の機会を通して、実際の子どもたちの姿を参観できたことも今回の評価につながっているものと思われる。教員の評価でも、A評価が20%程度増えるなど、一定の成果が表れた形である。

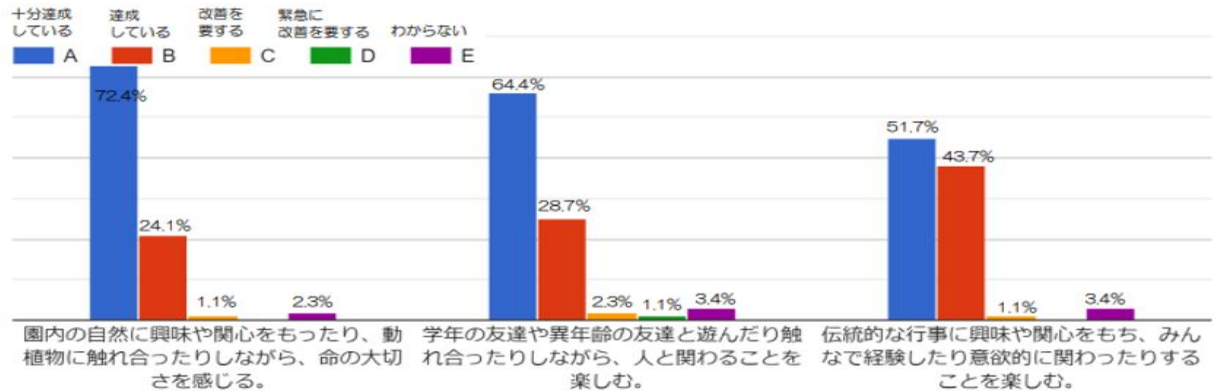
○③については、これまでの「幼稚園での様々な活動を通して、集団のルールを身に付ける」から変更し、重点目標に一層沿って「楽しさを感じる」ことに重きを置く形で設定した指標であった。保護者のA評価が77% (前年度は51.6%) と、全体を通して一番高かった項目となった。教員の評価の方も概ね達成できたと捉えている。これまでも、幼稚園としては、日々の生活の中で様々な活動が展開できるようにしながら、みんなで過ごしたり遊んだりする楽しさを感じられるように努めていたものの、コロナ禍により、ここ数年は本来推し進めたかった内容に制限をかけざるを得なかった現状があったことも事実である。各種制限が緩和された今年度、行事や活動の内容を吟味しながら計画的に実施できたことにより、その内容の尊さを幼稚園と保護者とで共有することができた表れなのではないかと捉えている。

重点目標3 幼児の生活や心情を豊かにし、思いやりのあるやさしい心を育む

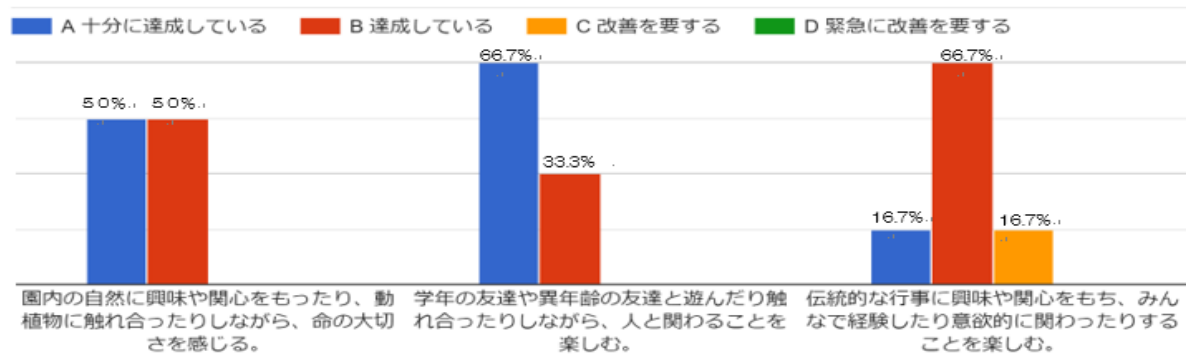
評価項目：園生活に興味や関心をもち、主体的に行動する幼児を育てる。

- 評価指標：
- ・園内の自然に興味や関心をもち、動植物に触れ合ったりしながら、命の大切さを感じる。
 - ・学年の友達や異年齢の友達と遊んだり触れ合ったりしながら、人と関わることを楽しむ。
 - ・伝統的な行事に興味や関心をもち、みんなで経験したり意欲的に関わったりすることを楽しむ。

<保護者>



<教員>



○重点目標3でも、全体として90%以上のプラス評価になった。(前年度は80%のプラス評価)

○①では保護者のA評価が72.4%と、高い数値であった。「幼児の豊かな心を育むための環境と援助の工夫～自然との関わりを通して～」を園内研究のテーマとし、園内の自然環境を改善したり自然に触れたりする活動を意識して取り入れてきた。自然環境に限られた地域であるだけに、保護者からのニーズも高い内容であると思われる。自然物は可変性に富み、幅の広いジャンルでもあるため、幼児に対して発達に必要な経験ができるよう、今後も教材研究と指導の工夫に努めていく。教員のA・B評価が50%ずつであるのは、その思いの表れである。また、年度の初めにこれまで長年園内で飼育してきたウサギが死去し、幼児のみならず、教師も保護者も改めて命の大切さに向き合う機会を得た。あたたかな保護者の協力も得て、昨年末には新たな命を迎え入れることができ、皆で愛情を注ぎながら関わっていこうとする姿が見られている。学校現場において哺乳類の飼育が少なくなっている現状の中、この内容を継続して行なうことができるのは、本園ならではの良さでもあるため、今後も大切に続けていきたい。

○②は、これまでの「異年齢や友達と遊んだり、地域の人々と触れ合ったりしながら、人と関わることを楽しむ」から、園内におけるコアな友達関係を充実させていくことに重きを置いて新たに設定した指標であった。保護者・教員ともに概ね高評価であったため、今後はこの内容を更に充実させていながら、地域の方々との関わりにまで徐々に範囲を広げられるようにしていきたい。

○③は、これまでの「伝統的な行事に興味や関心をもち、友達と共有したりする楽しさを味わったりする」を、「友達と共有する楽しさを味わう」ことが年少児、年中児には難しい部分があるため、全学年に共通する観点で、「みんなで経験したり意欲的に関わったりすることを楽しむ」とした指標であった。この項目のみ、教員の評価でC評価「改善を要する」が16.7%あることが特徴的である。コロナ禍も相まって、伝統的な行事を行なう機会が少なくなっていたが、今年度は数年ぶりに園全体でカレーパーティーを実施することができたため、今後も本園で培われてきた内容を大切にしながら、より良い行事となるように一歩ずつ進めていきたい。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

<保護者による全体評価について>

- 全体的に、プラス評価が95%以上であった。Aの「よくあてはまる」の割合が概ね60～70%台であるが、その中で比較的Bの「あてはまる」の割合が40～50%台と高い傾向にあったのが、基本的生活習慣を身に付けさせる内容や、家庭での教育を問う内容であった。重点目標の1にも重なってくるが、初めての集団生活である幼稚園は、各種の生活習慣面を一つずつ身に付けていく段階であり、大人がイメージする望ましい姿にまでは、すぐに辿り着かない実態がある。そのため、家庭と連携を図りながら段階を踏んで進めていくことが欠かせない。家庭での教育に関してBの評価が高めであることの背景には、家庭でもスムーズにいかない部分を感じている表れであることが読み取れる。今後も幼児期ならではの発達を踏まえつつ、スモールステップで一人一人の幼児の成長を幼稚園と保護者ととともに喜び合える関係を作りながら進めていきたい。
- 昨年度から運用された園務支援システム「ルクミー」を用いた「日々の幼児の生活」や手紙類の電子化、ホームページの日常的な更新など、各種発信に力を入れてきたことを踏まえ、新たに設問16にその内容を設けた。Aの「よくあてはまる」が72.4%と他の項目に比べて高い数値であり、一定の成果があったことが伺えた。今後も受け手の側に立ったきめ細かい内容の発信に取り組んでいく。
- 自由記述として、「その他の意見」欄では、登園時のセキュリティ面における内容があった。幼稚園が限られた人員で対応していることを慮る思いも込めた記述であったが、何よりも幼児の安全面を第一に、保護者の協力も得ながら徹底していくことを改めて確認し取り組んでいるところである。

<教員による全体評価について>

- 全体的にAの「十分に達成している」とBの「達成している」の評価がほとんどである。傾向としては、Bの方が高く、改善の余地を感じつつの評価であることが伺えた。一方、Cの「改善を要する」の評価があった項目は、「保幼小の連携」、「教育課題への対応」、「教育環境の整備」、「予算・出納」であった。
 - ・「保幼小の連携」及び「教育課題への対応」
小学校とは、コロナ禍により前年度まで中止されていた交流給食や、昨年度より再開の交流活動を行ったりすることができている。交流の内容的課題としては、双方の教員の情報共有や綿密な事前打ち合わせ、事後の評価・改善などをより細かく進めていくことであることが挙げられた。一方、保育園とは、互いに交流を充実させていくところまで至っていないため、改善が必要である。
 - ・「教育環境の整備」
施設面で経年により対応が必要な箇所が見られるため、関係各所と連携を図りながら修繕を進めていきたい。
 - ・「予算・出納」
園児数に応じて予算額が決まることにより、各年における運用面の工夫が課題として挙げられた。

3 今後の改善方策

- 保護者全体に対する発信の充実に継続して取り組むとともに、各家庭における課題等にもより具体的に沿えるよう、個々の保護者との連携を深めるようにしていく。特に、次年度より区内全園で「弁当給食」と「預かり保育」が実施されることも踏まえ、よりきめ細やかな情報共有に努める。
- 保育園との連携については、同じ就学前施設として幼児同士の交流がもてるようにしたり、保幼小連携日等の機会を活用したりしながら、教育内容の質が高まることを目指して取り組んでいく。
- 次年度が開園70周年の節目の年であることを鑑み、保護者とともに取り組む内容を充実させたり、地域を大切にする気持ちがより高まるような行事の取り組み方を工夫したりしていく。
- 今年度より、全体保護者会を対面・オンライン混合のハイブリッド型で実施し、より実態に沿った会となるよう努めてきた。オンラインでの参加者は毎回半数以上あり、一定のニーズがあることも確認できたところである。今後も内容に応じながら各種方法を創意工夫し、柔軟さを持ち合わせた運営となるよう努めていく。